

世界に挑戦するブレイクダンサー

半井重幸 半井彩弥

Shigeyuki NAKARAI

Ayane NAKARAI



素晴らしい身体能力

音楽も効果音も照明も何もない素舞台の上を2個の身体が激しく動きます。広い空間を移動しながら頭・肩・肘・手首・指・尻・膝・足首・つま先...と身体のすべての部分が走り、跳び、かがみ、回り、持ち上げ、立つ、とその運動の流れの中で瞬間的に位置を変え、その様は文字で記すことが困難な身体表現のパターンを創り出すのです。この身体運動の不思議さは全く奇跡とも言うばかりで、動きの様、それに添っての

重心の移動、そして身体各部のちょっとした細やかな身振りのすべてに踊り手の持つ内面の感性を感じさせます。

ブレイクダンスとは

ブレイクダンスというダンススタイルはニューヨークで生まれ進化してきました。元は音楽の間奏の部分、ブレイクビーツの即興演奏をダンスで表現する、言わば言葉をリズムに乗せて喋るラップのダンス版のようなものです。競技は「バトル」といって対面で技を競い合う種目と、コンテスト形式で競

大阪狭山市観光大使に

平成30年、半井彩弥・半井重幸姉弟は大阪狭山市の観光大使に任命され、その名と力を町の発展に役立ててくれることになりました。非常に喜ばしいことです。最後に、お二人の父重弥さんの言葉でこの稿を終えることとします。

「二人ともこれからどうなるかわからないけれど、これまでやってきたダンスに対する一途な想い・行動そして精神力は、将来なにをするとしても大きな財産になると思います。そして今、子ども達がこのように活躍する姿をリアルタイムで見ることのできる幸せに心から感謝です。古い言葉のようですが正に「子は宝」であると実感します。「ありがとう」を二人に、そして支えて下さるたくさんの方々に。」

今の日常生活

現在、彩弥さんは関西外国語大学の3回生に在学。これからの海外競技大会で世界の強者たちとバトルを戦っていくためにコミュニケーションツールとして英語を始め外国語の習得が必要と勉強中。また、ダンスショーの司会やダンススクールのインストラクターとしてキッズの指導にも携わっています。弟の重幸さんは大阪学芸高等学校1年生。勉学中も今後の世界のブレイクダンスシーンを背負っていくアスリートとしてダンス第一に邁進しています。

姉弟の生いたち

二人は父・重弥さんの仕事の関係で北海道札幌市で生まれましたが、間もなく大阪狭山市に移住。音楽好きな両親のもと、姉の彩弥さんは幼い頃からいくつかの習い事を楽しんでいましたが、4歳の時にスイミングスクールの体験教室でダンスを知り、リズムに乗せて身体を動かすことに夢中になりました。彩弥さんが本格的にブレイクダンスのレッスンを受け始めたのは10歳の頃、弟の重幸君は姉のレッスンに付いて行くのですが、ダンスはそっちのけ、好きな絵ばかりを描いていたそうです。描きたいものを思いのままに、横這いするザリガニを正面からはさみを振り上げ、目を丸くしているように描き「ザリガニの喜び」というタイトルをつけたというエピソードからもイマジネーション豊かな少年だったようです。しかし、だんだん彩弥さんのダンスに興味を持ち始め、重幸さんは7歳の時キッズのブレイクダンサーとして練習を始めました。その頃、彩弥さんはキッズ女子のブレイクダンサー Bgirl Ayaneとして国内の大会で優勝を重ね、中学を卒業する頃には海外の大会

にも参加、2013年から2016年の間に台湾・フランス・カナダ・香港・ドイツ・中国上海と世界各地の競技大会で優勝を飾り、2015年・2016年とフランスで行われた「Top Opposition Bgirl Only Battle」では大会2連覇をするなど、一躍世界に羽ばたくダンサーに成長しました。

一方、弟の重幸さんは姉の活躍を目の当たりにし、短期間にどんどんと技を磨き、観客の応援も身につけ、2013年11歳の時に世界の大会に挑戦、姉の彩弥さんに劣らずフランスのキッズ大会で優勝するや無敵の快進撃を続け、世界のキッズ大会を総ナメにし、キッズダンサーのトップに躍り出たのです。昨年、中学を卒業するや晴れてキッズから成人の男子チーム「G's Hood」とアスリート契約を結び、同じ年の11月には15歳という史上最年少の若さで「Red Bull BC One World Final」という大会に出場を決めトップ4に。続けて2018年ユースオリンピックのブレイキン(ブレイクダンス)アジア大陸予選で優勝しました。

ユースオリンピック出場決定

そして今年の5月20日、日本のカルツかわさきで行われたユースオリンピックのブレイキン競技世界

